

2016年12月
1112号

万葉 Manyo

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5
(一冊の会研究室)

レソト王国国王王妃陛下歓迎晩餐会

天空の王国と言われるレソト王国のレツィエ3世国王陛下、マセナテ王妃陛下のご来日に当たって、歓迎晩餐会という大事なお役目を、主催日本レソト王国友好協会・共催NPO法人一冊の会が担うことになり緊張の中、様々な準備を整えて11月24日当日を迎えました。天候は11月としては珍しい雪の朝、身を引き締めて役員一同団結も固く情熱で雪も吹き飛ばす勢いで成功へGO—。

協力団体である目黒雅叙園の4階、正面に能舞台をしつらえ、天井も壁も扉も最高の日本建築の粋を集めた会場で、NPO法人一冊の会筆頭最高顧問赤松良子先生がメインテーブルにお着席。大槻会長が両陛下を先導し会場に入場すると同時に創価グローリアの奏でるファンファーレ“王宮の花火”、厳かにしかも晴れやかな雰囲気の中で会場の皆さま全員起立して、レソト王国・日本両国の小旗を振って歓迎のお出迎え。両国の国家斉唱するお姿は、どのお顔も今日の日を迎えられた喜びに満ちている。



タペストリーを頂く

冒頭、日本レソト王国友好協会の大槻会長より2008年に友好協会を設立して以来、待ち望んでいた国王陛下のご来日が実現した喜びと感謝の挨拶がありました。

来賓として公明党代表の山口那津男参議院議員、元経済産業大臣自民党小淵優子衆議院議員の挨拶があり、続いてレソト王国を代表して保健大臣モロツィ・モニヤマネ閣下よりこの度の日本訪問で多くのことを経験し、また、真心こもる盛大な歓迎への感謝のご挨拶がありました。その後、日本レソト王国友好協会と一冊の会から数々の記念品の贈呈が行われました。返礼として国王・王妃陛下からは、見事なタペストリーの織物が大槻会長に贈られ、感激の記念撮影となりました。このタペストリーは日本レ



ソト王国友好協会の宝物となることでしょう。

ここで国王・王妃陛下は席を外され、その間に歓迎演奏の舞台に向かってお席が用意されました。そして、日本の文化・茶道の御薄茶を振り袖姿のメンバーがお運び・御接待。日本の雰囲気味わって頂く中、日本吹奏楽コンクールで11回金賞の創価グローリア吹奏楽団20名による演奏2曲、舞踊リーダー全国大会9回受賞の菊の会の荘厳な日本舞踊、黒坂黒太郎氏のコカ

リナの演奏と続き、2011年の東日本災害で奇跡の一本松として生き残った松の木で作られたコカリナが、記念として国王陛下に献上され、“一冊の会親善大使さくら阿波踊り”では、幼女を含む見事な群舞。感動のうちに第一部は閉会となりました。

第二部開会の冒頭、国王陛下はこの度の訪日に当たり真心の歓迎への感謝を述べられ、「ここに集まった人々の中で、何人かの人々が何時かレソトを訪問されることを望み、その際には日本で受けた”おもてなし”をお返ししたい」との有難くもあたたかいお言葉を頂くことができました。



熱心に折鶴に挑戦される王妃陛下

ウェルカム・ディナーはアフリカ開発協会矢野哲朗会長の乾杯発声で始まり、最高のお食事と様々な国と友好を結ぶ世界市民感覚あふれる人々との歓談の素晴らしいひとときを満喫いたしました。

大槻会長と王妃陛下はすでに22日に二葉学園に同行していたので旧知の友の如く楽しい会話に花が咲き、時間も忘れる程。テーブルに飾られていた折り鶴に興味を持たれ自国の子ども達へのプレゼントとして折り方を学びたいと熱心に折り続ける王妃陛下の優しく慈愛に満ち溢れた国母の姿に感銘を受けました。

友好の雰囲気溢れる晚餐会は、佐藤啓太郎一冊の会最高顧問のスワヒリ語もまじえた簡潔なご挨拶で閉会となり、国王・王妃陛下のご退場とお見送りで終了いたしました。

全ての参加者が今回の栄えある歓迎宴に連なることができたことを生涯最大の思い出と感謝しております。また、出席はしなかったが、無事故・成功のために真心の祈りと協賛のご支援でご協力をくださった方々も含めて、皆がレソト王国の親善大使となって周囲の友人にレソト王国をPRし、教育支援・文化交流の活動に参加して下さることを心より願っております。

今回大成功に導いてくださった陰の立役者は2人おります。アフリカ開発協会矢野哲朗会長です。「大槻さん!あなたがこの会の会長だよ。私ではない。しっかり支えているよ。」と大きな腕に包んで頂きました。もう一人は、最高顧問佐藤啓太郎元大使です。私たちがどんな状況の時でも常に安心と勇気を与えて下さいました。「例え間違っても自分しか分からない事。自身を持って明るく次に進みなさい。」と

励まして頂きました。このお二人のお言葉は役員一同には“千金の重み”となり次への飛翔となりました。

==佐藤元大使に感謝!==



お見送り

一冊の会・一同